

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 53

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43851

第五回山岸ダレス会談(昭三二・六・二一)

第五回岸、ダレス会談要旨

時 一九五七年六月二十一日 九〇〇一―一、〇〇

一四〇〇一―五二〇

所 國務省國務長官室

30 部威の第10号

極秘

表現に落着くこととなつた。

領土問題に關し、草案の *residual and ultimate sovereignty* の点につき、長官は *ultimate* は意味不明確なるをもつて削除すべしと提案し、総理より、右は長官の新聞会見における用語なる旨を指摘し、日本國民の沖繩の日本復帰に關する強い希望にかんがみ、特に右字句を声明に入れることにより、將來沖繩及び小笠原が日本に返還されることを明確にするよう考慮されたと強調されたが、長官は、右用語は自分の新聞会見におけるエキステンプレイニヤスな発言であるを弁解に努めたる後、この歸沖繩の地位に変化を生ずるがことき表現を使用することは、旧連合國特にオーストラリア、ニールジーランド、フィリピンなどの關係よりも、米國単独ではなしえざるところであると述べ、サンフランシスコ会談の際の記録を引用し、矢張り従来より用いられおる表現以上に出ることは困難であると述べた。

5 右に対し総理は、これに依せられるとともに、草案の *to exercise its present powers and rights* は日本の國民感情を刺戟するおそれがある所以を脱かれ、その表現変更を提案され、声明のとおりとなり

さらに長官より、末尾センテンスの *the U. S. will take measures to improve* の箇所を声明のとおり変更を示唆し、日本側これに応じた。

小笠原州島問題に関して長官は、本件は声明には入れぬこととしたい。自分としては極めて困難な事情にも拘らず、たとえ小敵なりとも掃蕩を実現したいと考えているが、さらに研究及び準備を要する段階にあるので、現在これを公表することは好ましくない旨発言し、総理より、わが方としては別紙五のごとき一節の挿入を希望する旨述べたが、同意をうるに至らず、総理より、とに角このことにつき是非とも好意的な解決を望む旨強調するところがあつた。さらに総理は、この問題に関連して、関係者に対する補償の問題のあることを指摘されたところ、長官は、本件はあるいは補償支払による解決が適当かとも思う旨述べるところあり。さらに補償の問題も併せて研究を行うこととしたいと述べた。

総理はこれに同意されるとともに、元島民中に同島にある先祖の墓参のため旅行許可をえたいとの強い希望があるので、右もまた考慮されたいと述べられたところ、長官は研究を約した。

6

日米通商関係末尾草案の *special restriction* が *local* …… となつたのは、長官の提案による。

東南アジア経済開発の末尾センテンスは原案になかつたが、これに關し総理より、自分の東南アジア旅行の際における各国指導者との本件に關する意見交換の経緯もあり、日本側より具体案の提示が行われ、協議の結果米側は、これが研究を約したといふがごとき表現となすよう強調されたが、長官及びマ大使より、未だ研究の時間的余裕がなかつたと述べ、わが方より *and agreed that further studies*

should be made in line with the ideas presented by the Prime Minister なる字句の挿入を提案したが、結局ダレス長官の発案で声明のごとき表現で妥協した。

原水爆実験中止の問題については、総理より重ねてわが困国民感情につき述べるところがあつた。この項第一センテンスの *manufacture and testing* の順序変更は、長官の示唆による。日本側で実験の禁止を重視しているからとの考慮からと思われるも論議はなかつた。

7

なお、本会談は午前十一時までを終了することを予定されていた

が、予定以上の時間を要し、長官はこの間大統領に電話し、総理訪問の時間を延期したが、結局十一時四十分頃に至り一旦会談を中止し、総理はホワイト・ハウスを訪問せられ、同日午後プレスクラブのランチ・セッション終了後二時すぎより三時二十分まで継続された。

なお、午前中にまとまつたのは小笠原帰島問題までであつたが、合同委の任務に關する項中、末尾センチテンスの修正及びI項冒頭實際共産主義の脅威に關する表現の修正は、午後米側から提案された。さらに共同コミュニケの公表時刻については、パーティン次官代理よりワシントン時間当日午後五時が翌朝朝刊掲載の關係より望ましい旨の発言があつたが、当方は適正な日本語訳を發表時以前に確定しておく必要を指摘し、ダレス長官も同意したので、一応午後六時ないし七時に公表することとし、翻訳の進行具合により最終的に決定することに合意し、結局午後六時半に至り翻訳ができたので、午後七時ホワイトハウスより英文、在米大使館より邦文を公表することになつた。公表の際ならかコメントを付するやの点については、ダレス長官は、共同声明は self-explanatory なりとし、消極的見解を述べたので、双方コメントせざることとした。